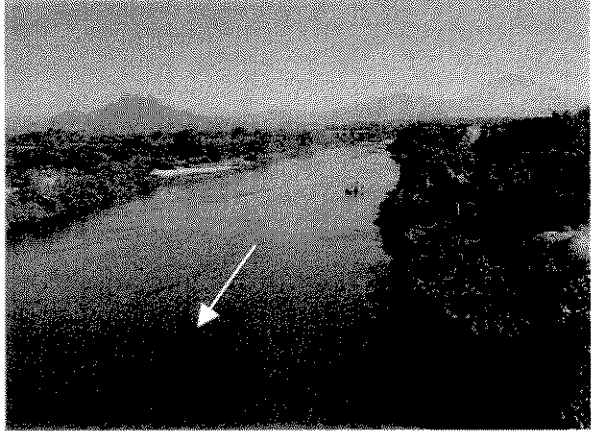




Jiboa川下流を望む。



Jiboa川上流側を望む。



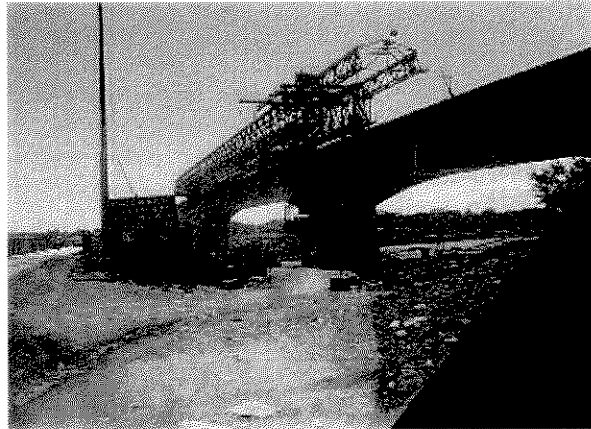
Lempa川下流域右岸側。洪水によって流された樹木や大量の土砂が堆積している。



Lempa川下流域の右岸側には日本の見返り資金を利用して7.5kmにわたって堤防が築かれている。これは、今後17.5kmに延長され、左岸側にも16.8kmの築堤が計画されている。

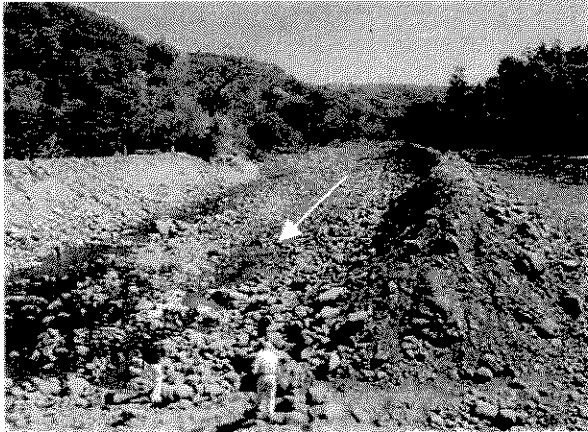


Lempa川下流域の右岸側堤防。

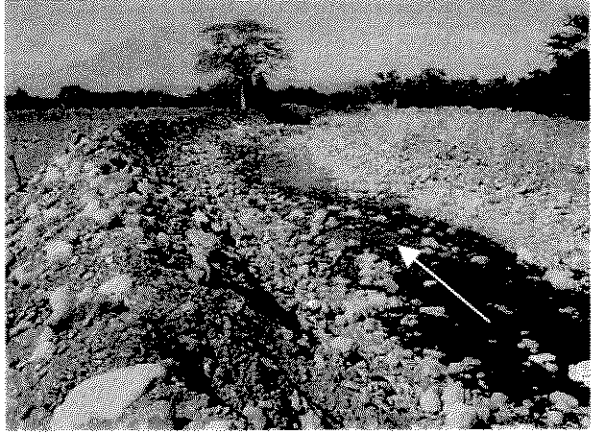


Lempa川下流を渡る橋の架け替え工事が進行している。





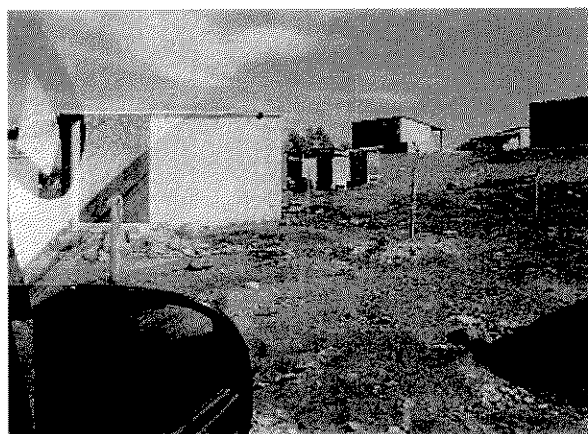
エル・サルヴァドルで最も大きな被害を受けた土石流被災現場。公共事業省によって河川沿いに高さ6m程の盛り土がなされ流路の成型がなされている。



Chilanguera土石流現場から下流を望む。



Chilangueraの土石流現場。このあたりにあった集落は壊滅的な被害を受けた。

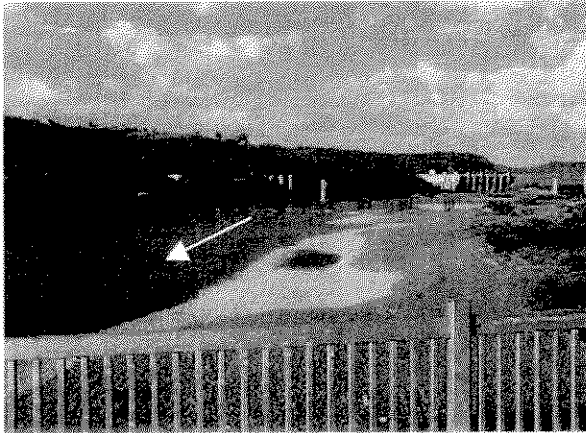


Chilangueraの被災者のための再定住プロジェクト。約250戸の住宅が建てられている。

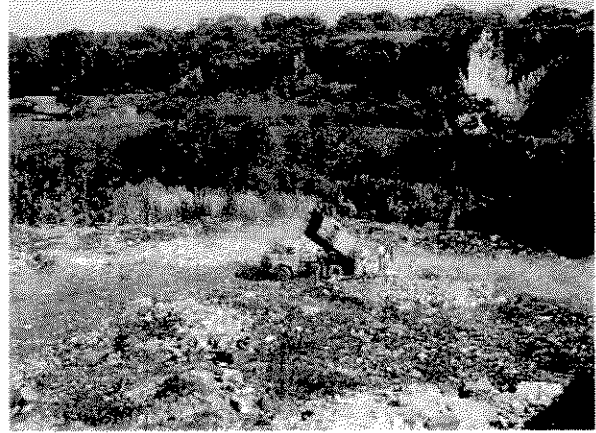


Chilangueraの再定住現場を遠くから望む。なだらかな山裾の傾斜地に位置している。





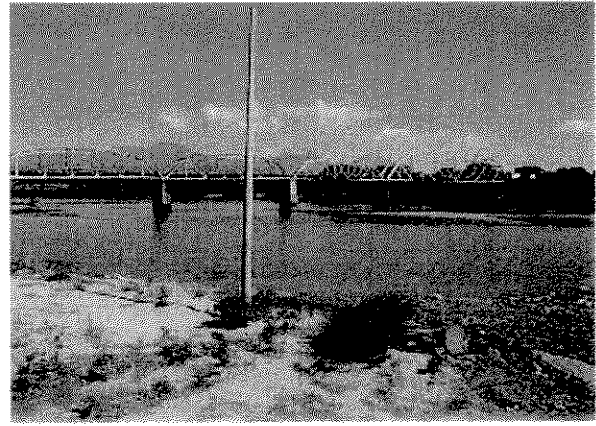
Lempa川下流からEmbalse 15 de Septiembre  
ダムを望む。



Jiboa川中流部に位置する。ゴミの廃棄場。洪水が来る度にゴミの一部を下流に流してしまうので決してゴミがいっぱいになることはないという。



Lempa川を渡る仮橋。交通量が多いときには  
渋滞を引き起こす。大型車両は通行できない。



すぐ上流側の鉄道橋は、現在は仮の道路橋と  
して大型車両の通行に利用されている。

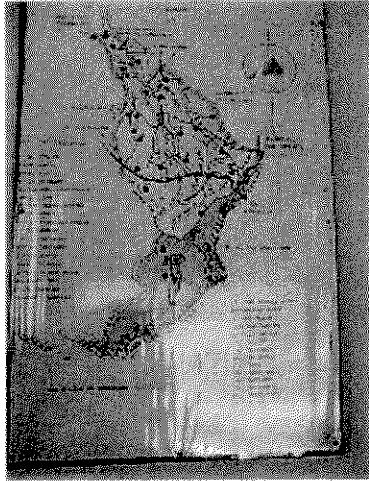


EUの協力によって建てられたSan Carlos  
Lempaの保健所。

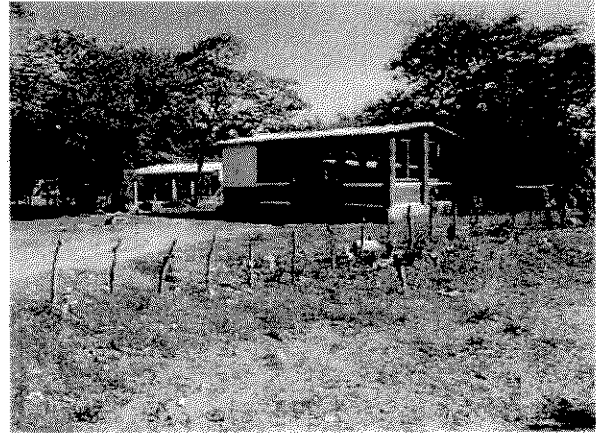


San Carlos Lempaの保健所の中。

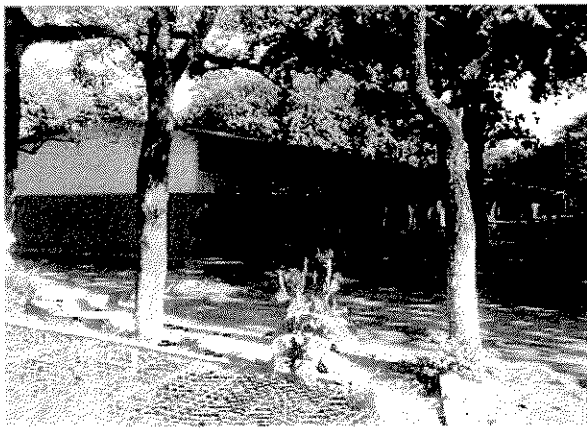




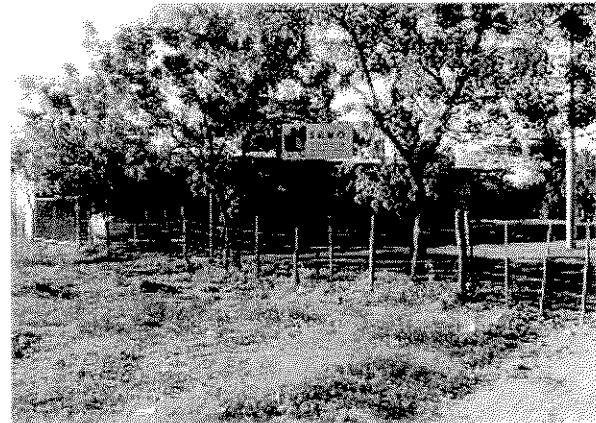
San Carlos Lempaの保健所の壁には、洪水危険地域を示した地図が市民の目に付くように掲示されている。



Lempa川下流右岸側のSantamartaコミュニティの集会所。床が80cm程高くなっている。



San Carlos Lempaの小学校。洪水時には避難所となる。



CORDES (NGO)によって営まれているカシューナッツの工場。地域で有機栽培されたカシューナッツを加工し、パッキングして輸出している。



出荷される前の箱詰めされたカシューナッツ。



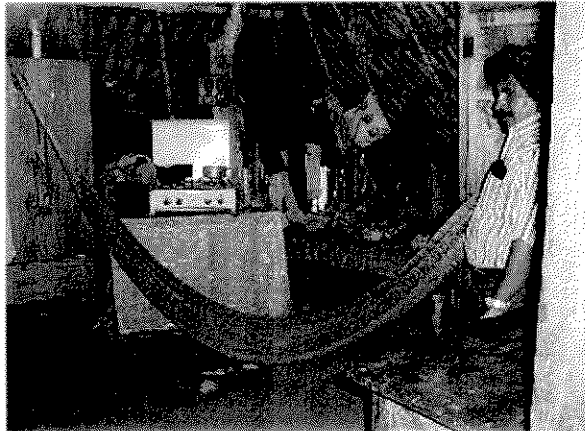
San Vicente県の道路で。夕暮れ前に放牧地から帰る牛の群。



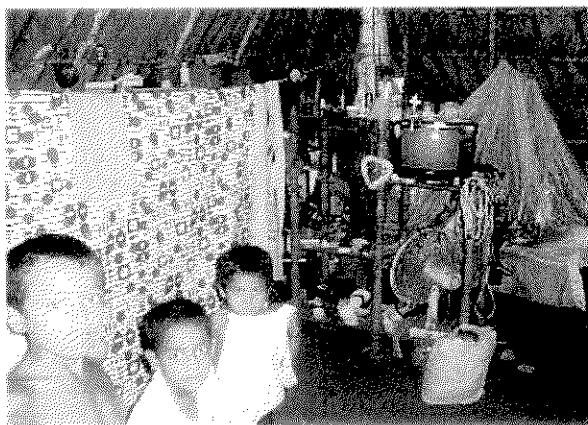




Paz川下流域Ahuachapan県Claudia Larsコミュニティの住宅とコミュニティ・リーダー。



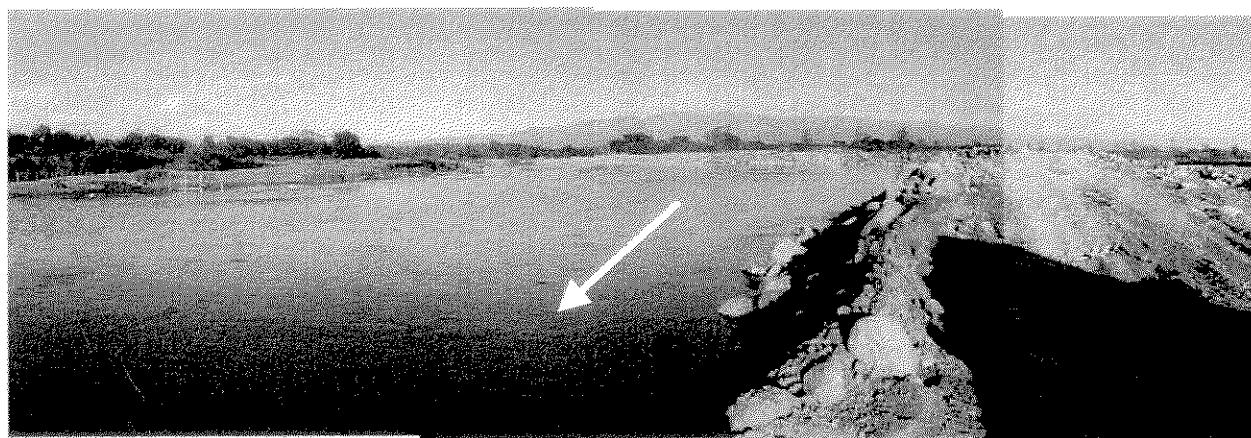
住宅の内部。一部屋のみで調理具、家具、寝具、テレビ等がある。



Claudia Larsの住宅の内部。



Ahuachapan県のRancho San Marcosの住宅の内部。電気はなく、テレビは車のバッテリーで見ている。



Paz川下流域の左岸堤。低水路も無く、運んできた土を積み上げただけで十分な締め固めもなされていない。



(3) パナマ

中米「ハリケーン復興・防災対策」

プロジェクト形成調査

現場写真

パナマ

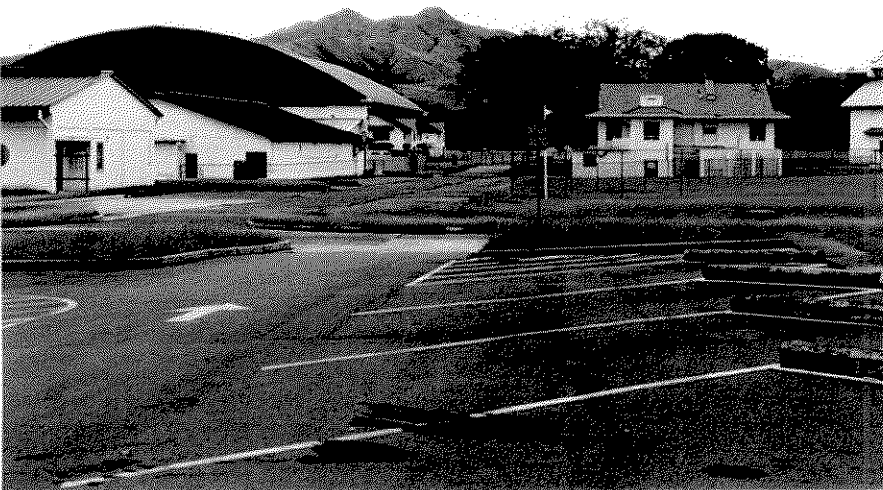




SINAPROCの局長の案内でハワード基地あとの建物を視察（SINAPROCやパナマ防災アカデミーがこの施設に入る予定である）

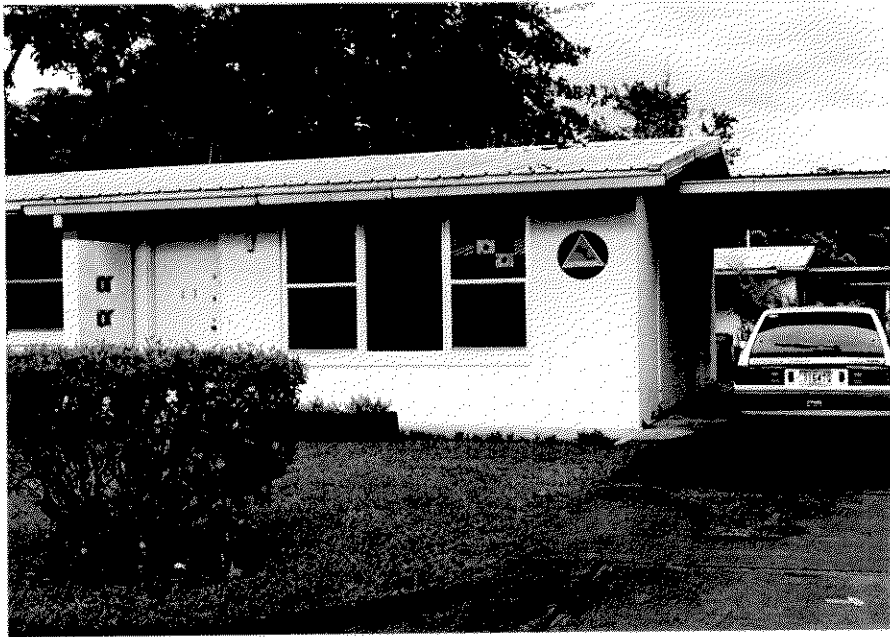


ハワード基地あとの建物（このような大きな建物が多数ある）



航空機の格納庫などもある。広大な敷地である。





CEPREDENACの建物  
(米軍の住宅を利用  
している)

